

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社は、以下に掲げる経営基本方針を実現し、株主の皆様をはじめ顧客、従業員、地域社会等のステークホルダーの期待に応えるため、透明性・公正性を高めて経営を監督して、変動する社会・経済環境に対応すべく迅速・果敢な意思決定を行う仕組みとしてのコーポレート・ガバナンスを整備、改善していくことが、重要であると考えております。

【経営基本方針】

当社のコーポレートアイデンティティは「すべての産業界へ革新的なストラクチャードファイナンスの効用を浸透させる」であります。金融環境の変化に応じた先端的・革新的な金融商品や「仕組み」を作り、多様化する顧客のファイナンス・ニーズに対応するとともに、顧客の企業価値、資産価値の最大化を通じて、関係するすべてのステークホルダーの満足を実現して参ります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】更新

2021年6月改訂後のコードに基づき記載しています。

【原則2 - 4 中核人材の登用等における多様性の確保】

投資銀行事業、公共コンサルティング事業、エンタテインメント・サービス事業のそれぞれの領域において、すべての役職員が活躍できる環境を整え、さまざまな価値観やアイデアを融合させ、新たな価値を創造するチャレンジを喚起することが重要と考えております。人材の多様性を前提に登用目標値や人材育成方針、社内環境整備方針などを当社グループの多様な事業領域と今後の経営戦略を踏まえ検討して参ります。

なお、登用については、能力や適性などを総合的に判断して登用しております。当社グループは中途採用者が多いため、中途採用者の管理職への登用は進んでいるものの、女性の管理職比率は低い状況です。

また、人材育成については、外部教育機関を起用した人的資質を向上させる教育や公的資格支援制度を導入しています。

ご参考として、当社グループの女性従業員(正社員)の割合は、2021年9月末に45.6%となっております。投資銀行業務は24.6%と低いものの、公共コンサルティング事業は50%、エンタテインメント・サービス事業は61.9%であります。特に投資銀行事業において能力を重視しつつも女性比率を高める採用を進めて参ります。

【原則3 - 1 サステナビリティの取組みの開示 人的資本や知的財産への投資等の開示・提供】

当社グループは、投資銀行事業を中心にファイナンスを通じて社会的課題を解決する取り組みを推進しております。また、メツタにおいても、サステナビリティに関する各種取り組みを進めています。その具体的な取り組みはウェブサイト(<http://www.fgi.co.jp/company/sdgs/>)にて、開示しております。

人的資本への投資については、当社グループの持続的な成長に向けた経営戦略の重要な要素の一つであります。今後検討していく中長期の経営戦略と適合した人的資本投資を計画、実行するとともに、その成果を適切なKPI等で開示していきたいと考えております。

知的財産への投資については、投資銀行事業においてブロックチェーンを利用したSTOなどを検討しておりますが、こちらの進捗の開示も検討して参ります。

【補充原則4 - 1 最高経営責任者の後継者計画の監督】

当社は、最高経営責任者である代表取締役社長の後継者計画・後継者の育成については、重要な課題であると認識し、当社の事業特性や経営環境、経営戦略等を踏まえ、取締役会で十分な時間をかけて議論し、検討してまいります。

なお、当社では現段階において、経営幹部候補者については、早い段階から経営経験を積ませ、経営感覚を養う機会を設けるなど、その育成に努めております。

【補充原則4 - 2 経営陣の客観性・透明性ある手続に従った報酬制度の設計、具体的な報酬額の決定】

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)の基本報酬については、取締役会の決議によって独立社外取締役で構成する監査等委員会にその具体的内容の決定を委任しております。監査等委員会は代表取締役社長が役位、職責、実績、前年度の全体業績に対する経営責任、業務執行責任、他社水準、従業員給与とのバランス等を総合的に勘案して各取締役を評価して策定した原案をもとに、各取締役の報酬案を審議し、最終決定していることから、公正性・客観性・透明性は確保しております。

一方で、中長期的な業績と連動する報酬の割合の適切な設定という観点からみると、更なる改善の余地はあると考えており、今後、報酬制度の見直しを検討して参ります。

【補充原則4 - 2 サステナビリティの取組み方針の策定、人的投資や知的財産への投資】

当社は、コーポレートガバナンス・ガイドラインにおいて、以下のサステナビリティ基本方針を規定して、サステナビリティに関する取り組みを積極的に推進しています。

「ステークホルダーの期待や要請を踏まえて社会的責任を果たすため、投資銀行事業の領域を中心に、地球環境や社会が抱える様々な課題を解決し、持続可能な成長と社会的問題の解決に貢献する。」

人的資本への投資については、当社グループの持続的な成長に向けた経営戦略の重要な要素の一つであります。取締役会は、今後検討していく中長期の経営戦略と適合した人的資本投資を計画、実行するとともに、その成果を適切なKPI等で実効的に監督していきたいと考えております。

知的財産への投資については、投資銀行事業においてブロックチェーンを利用したSTOなどを検討しておりますが、こちらの進捗の開示も検討して参ります。

【補充原則4-10 指名委員会・報酬委員会の設置】

当社は取締役(監査等委員である取締役を除く。)の指名に関して、代表取締役社長が原案を作成後、社外取締役の助言を得て取締役会に提案し、決定しており、公正性・透明性・客観性は確保されております。

取締役(監査等委員である取締役を除く。)の基本報酬については、上記【補充原則4-2】に記載の手続きにより決定しており、株式報酬型ストックオプションについては、基本報酬の額にそれに対する退職慰労金積立額相当額の計算のための一定の割合を乗じたものとして取締役会の半数を占める社外取締役が出席する取締役会で決定しており、公正性・透明性・客観性は確保されております。

これらのことから、指名委員会・報酬委員会は必要なく、現行の仕組みで適切に機能していると考えています。

【原則5-2 経営戦略や経営計画の策定・公表】

【原則5-2 決定された事業ポートフォリオの基本方針・見直し状況の開示】

当社は、2018年5月28日に中期経営計画を策定・公表しましたが、事業環境の変化が生じたことを踏まえ、2019年11月8日に2020年3月を目途に計画を見直すことを決定しました。しかしながら、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、この見直しを取り止め、新たな中期経営計画の策定は、感染症の収束後、改めて検討することとしました。

当社は半年度の経営計画は策定・公表しておりますが、持続的な成長を実現していくためにも、中期的な視点に立った経営ビジョンの策定や戦略立案が重要であると考えております。今後は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況やその他の事業の状況を踏まえ、中期経営計画を検討していきたいと考えておりますが、投資銀行事業の特性上、個々の投資案件のエグジットの成否が業績に与える影響が大きいことや、企業投資による連結の範囲の変更が連結業績に大きな影響を与えることから、業績数値目標による中期経営計画については、慎重に検討して参ります。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】 更新

2021年6月改訂後のコードに基づき記載しています。

当社は、コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方や枠組みを定めた「コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定しています。内容は、以下の当社ウェブサイトに掲載しています。

* 当社ウェブサイト コーポレートガバナンスに関する方針および実施状況

「コーポレートガバナンス・ガイドライン」

<http://www.fgi.co.jp/company/governance/>

コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示事項は以下のとおりです。

【原則1-4 政策保有株式】 (当社ガイドライン第23条)

当社は、政策保有株式として上場株式を保有しない方針としています。

【原則1-7 関連当事者間の取引】 (当社ガイドライン第26条)

当社は、当社の取締役等の関連当事者との間で取引を行う場合には、株主の利益を害することのないよう、関連当事者取引管理規程等に従い、法務・コンプライアンス部、事業統括部及び経理財務部において、取引の必要性、取引条件およびその決定方法の妥当性について、事前に確認しています。当該取引が当社取締役との利益相反取引である場合には、取締役会規程等に従い、取締役会の承認を得ることとなります。

また当社は、年1回、取締役及び執行役員から、関連当事者との取引の有無に関する調査の確認書の提出を受け、管理する体制をとっており、関連当事者との取引は、会社法及び金融商品取引法その他の適用ある法令等に従って開示しております。

【原則2-6 企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮】

当社は、企業年金基金制度はありません。なお、従業員の安定的な資産形成を目的として、企業型確定拠出年金制度を導入しております。

【原則3-1 情報開示の充実】

() 会社の目指すところ(経営理念等)や経営戦略、経営計画 (当社ガイドライン第2条)

経営理念等 : 本報告書「1. 基本的な考え方」に経営基本方針を記載しております。

経営戦略、経営計画 : 経営戦略及び半年度の経営計画を記載した決算説明資料や有価証券報告書を、以下の当社ウェブサイトに掲載しております。

<http://www.fgi.co.jp/ir/library/>

(ii) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針 (当社ガイドライン第2条)

基本的な考え方は本報告書の「1. 基本的な考え方」に記載のとおりであります。

基本方針は、コーポレートガバナンス・ガイドラインとして制定しております。

(iii) 経営陣幹部・取締役の報酬を決定する際の方針と手続 (当社ガイドライン第17条)

本報告書の「II 取締役報酬関係 報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容」に記載のとおりであります。

(iv) 経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行う際の方針と手続 (当社ガイドライン第10条)

1. 当社の取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除く。)候補者は、性別・国籍などの個人的属性に関わらず、当社の業務や事業領域に精通し豊富な経験・実績があることや、リーダーシップ、判断力、決断力、先見性などを総合的に勘案して、中長期的な企業価値向上に貢献できる者を選定します。

2. 当社の社外取締役候補者は、性別・国籍などの個人的属性に関わらず、優れた人格、高い倫理観を有するとともに、当社の経営基本方針等を理解し、企業経営の経験や財務、会計、法律等の知識に基づき、社外の独立した立場から経営を監督して、的確な指摘、助言等を行うことができる者を選定します。

3. 当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)候補者は、上記1.または2.の基準により、代表取締役社長が原案を作成後、社外取締役の助言を得て取締役会に提案し、決定します。

4. 取締役に法令違反等があった場合またはその職務に関し任務懈怠が認められる場合は、取締役会で解任について審議します。また、代表取締役社長については、会社の業績等について外部環境の変化等を考慮した適切な評価を踏まえ、その機能を十分に発揮していないと明らかに認められる場合には、取締役会においてその解任について審議します。

(v) 上記(iv)を踏まえて経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選解任・指名についての説明

当社は、取締役候補者(監査等委員である取締役候補者を含む。)として指名した個々の理由及び必要な略歴等を、株主総会招集通知にて開示

しています。

【補充原則4 - 1 経営陣に対する委任の範囲の概要】（当社ガイドライン第4条(2)）

重要な業務執行の決定については、法令により取締役会の専決事項として定められた事項、一定額以上の投融資、組織変更等を除き、取締役（監査等委員である取締役を除く。）に委任しております。

【原則4 - 9 独立社外取締役の独立性判断基準及び資質】（当社ガイドライン第10条第2項、第11条）

当社の社外取締役候補者は、性別・国籍などの個人的属性に関わらず、優れた人格、高い倫理観を有するとともに、当社の経営基本方針等を理解し、企業経営の経験や財務、会計、法律等の知識に基づき、社外の独立した立場から経営を監督して、的確な指摘、助言等を行うことができる者を選定しています。

独立社外取締役を選任する際の判断基準は、東京証券取引所の定める独立性判断基準等を参考として、当社との間に利害関係がなく、一般株主と利益相反が生じる恐れのない者としています。

【補充原則4 - 11 取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方】

（当社ガイドライン第5条）

1. 取締役会は、十分な議論を尽くしたうえで、迅速で合理的な意思決定をすべく、取締役（監査等委員である取締役を除く。）を4名以内、監査等委員である取締役を5名以内としています。

2. 取締役会は、当社の重要事項の決定と監視・監督の役割を果たすため、取締役会全体として多様な知見と経験がバランスよく備わるように考慮した構成としています。

3. コーポレートガバナンスの実効性を高めるため、取締役の3分の1以上を独立社外取締役としています。

なお、取締役会は、上記2.においては、経営戦略に照らして自らが備えるべきスキル等を特定の上、株主総会の招集通知に取締役候補者のスキル・マトリックス及び各候補者の選任理由を記載して開示しております。また、独立社外取締役には他社での経営経験を有する者を含めているほか、専門分野における深い見識を有していることを考慮しております。

取締役のスキル・マトリックスについては、当社ウェブサイト(http://www.fgi.co.jp/ir/library/proxy_statement/)に掲載の第27期定時株主総会招集ご通知に記載しております。

【補充原則4 - 11 役員が他の上場会社の役員を兼任する場合における兼任状況】

当社は、取締役候補者及び取締役の重要な兼職の状況を、「株主総会招集ご通知」の参考書類及び事業報告並びに有価証券報告書等の開示書類において毎年開示しております。

【補充原則4-11 取締役会全体の実効性の分析・評価と開示】（当社ガイドライン第13条）

当社では、取締役会全体の実効性に関して、取締役の自己評価を実施し、分析及び評価した上で、その結果の概要を、開示しております。

2021年9月期における取締役会の実効性に関する評価結果は、以下の当社ウェブサイトに掲載しております。

「取締役会の実効性に関する評価結果の概要」

<http://www.fgi.co.jp/company/governance/evaluation/>

【補充原則4 - 14 取締役・監査役のトレーニングの方針】（当社ガイドライン第8条）

1. 当社は、取締役が重要な統治機関の一翼を担う者として期待される役割・責務を適切に果たすため、それぞれに適合したトレーニングの機会を提供し、それに必要な費用を負担します。

2. 当社は、社外取締役を含む取締役に対し、就任時に経営を監督する上で必要な当社の事業・財務・組織及び内部統制システムや、法律・コーポレートガバナンスなどに関し知識を習得する機会を提供するとともに、就任後には、必要に応じて、これらを更新する機会や社外有識者による講義等の機会を提供します。

【原則5 - 1 株主との建設的な対話に関する方針】（当社ガイドライン第27条第1項）

当社は、以下のとおり、株主との対話に関する方針を定め、合理的な範囲で株主との建設的な対話の充実に努めます。

(1) 当社は、IR担当の取締役（監査等委員である取締役を除く。）を指定し、株主との間で建設的な対話を行い、代表取締役社長をはじめとする取締役（社外取締役を含む。）も必要に応じてこれに出席する。この事務局は事業統括部に置く。

(2) 株主総会のほか、個別面談や説明会の開催、ウェブサイト上での開示資料等により、情報発信の強化に努める。

(3) IR担当の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、これらの対話を社内の各部署と連携して行う。また、株主との対話で得られた意見等を、取締役会にフィードバックするよう努める。

(4) 当社は、未公表の重要情報が一部の市場関係者のみに開示されないように、関係者に対して内部者取引管理規程の周知、徹底を図る。四半期毎の決算日翌日から決算発表日までは、決算情報に関する対話を控える「沈黙期間」とする。

2. 資本構成

外国人株式保有比率

10%未満

【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
玉井 信光	10,095,500	5.02
株式会社CAT-MY	10,000,000	4.97
楽天証券株式会社	3,926,700	1.95
藤井 優子	3,576,400	1.78
株式会社SBI証券	2,266,200	1.13
JPMBL RE CREDIT SUISSE AG, SINGAPORE BRANCH COLL EQUITY	2,183,500	1.09
小松 秀輝	2,000,000	0.99
田村 直丈	1,806,000	0.90
青島 正章	1,708,000	0.85
ロバート・ハースト	1,634,300	0.81

支配株主(親会社を除く)の有無

親会社の有無

なし

補足説明

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第二部
決算期	9月
業種	その他金融業
直前事業年度末における(連結)従業員数	100人以上500人未満
直前事業年度における(連結)売上高	100億円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社以上50社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査等委員会設置会社
------	------------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	9名
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数 更新	6名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数 更新	3名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	3名

会社との関係(1) 更新

氏名	属性	会社との関係()										
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
川崎 史顯	他の会社の出身者											
鈴木 健次郎	他の会社の出身者											
大山 亨	他の会社の出身者											

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、 「過去」に該当している場合は「 」、

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、 「過去」に該当している場合は「 」、

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員との相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

氏名	監査等委員	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
川崎 史顯			<p>川崎史顯氏は2015年12月の当社社外監査役就任前まで当社特別顧問として営業全般に関する助言及び相談業務を受嘱していましたが、2021年9月期に係る定時株主総会終結時には6年経過し、一般株主との利益相反が生ずるおそれはないと判断しております。</p> <p>また同氏は、当社及び当社子会社と取引関係がある日本生命保険相互会社、及びあいおいニッセイ同和損害保険㈱の出身ですが、いずれも退職後10年以上経過しており、2021年9月期における当社及び当社子会社との取引の支払額または受取額は当社及び当社子会社、または各該当会社の連結売上高または経常収益の1%未満であることから、当社の意思決定に著しい影響を及ぼす取引先ではなく、同氏の独立性に問題はありません。</p>	<p>川崎史顯氏は、生命保険会社を経て損害保険会社の経営に携わり、企業経営者として豊富な経験と幅広い見識を有しております。また2015年12月より当社の常勤監査役または常勤監査等委員として、その経験や見識をもとに様々な角度から監査を行ってきました。これらの経験と実績を引き続き当社の監査等に活かしていただくことを期待して監査等委員である社外取締役としております。</p> <p>同氏は東京証券取引所が定める「独立性基準」には抵触せず、一般株主との利益相反が生ずるおそれがないと判断されることから、独立役員に指定しております。</p>
鈴木 健次郎			<p>鈴木健次郎氏は、監査等委員である社外取締役就任前の2018年4月から2020年12月まで、当社と顧問契約を締結してコンプライアンスに関する相談、助言及びリスクマネジメント・コンプライアンス委員会の委員の業務を受嘱していましたが、当該顧問契約の報酬額は月額30万円であり多額ではないため、同氏の独立性に問題はありません。</p>	<p>鈴木健次郎氏は、金融行政及び金融業界における要職を歴任するなど豊富な経験があり、財務、会計及び法務に関する知見など幅広い見識を有しております。また、監査等委員である社外取締役就任前から、当社のリスクマネジメント・コンプライアンス委員会に委員として出席しており、コンプライアンスに関するご提言をいただいております。これらの経験、知見により投資銀行事業を営む当社の経営全般に適宜助言又は提言をいただくために、監査等委員である社外取締役としております。</p> <p>同氏は東京証券取引所が定める「独立性基準」には抵触せず、一般株主との利益相反が生ずるおそれがないと判断されることから、独立役員に指定しております。</p>
大山 亨				<p>大山亨氏は、証券会社の公開引受部や株式市場コンサルタントとして、長年、株式公開指導に当たっており、豊富な業務経験を通して、財務・会計に関する相当の知見を有しております。それらに基づき、客観的・中立的な立場から当社経営の監査・監督をおこなっていただくため、監査等委員である社外取締役としております。</p> <p>同氏は東京証券取引所が定める「独立性基準」には抵触せず、一般株主との利益相反が生ずるおそれがないと判断されることから、独立役員に指定しております。</p>

【監査等委員会】

委員構成及び議長の属性 [更新](#)

	全委員(名)	常勤委員(名)	社内取締役(名)	社外取締役(名)	委員長(議長)
監査等委員会	3	1	0	3	社外取締役

監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人の有無 [更新](#) あり

当該取締役及び使用人の業務執行取締役からの独立性に関する事項 [更新](#)

当社は、監査等委員会から求めがある場合には、速やかに監査等委員会の職務を補助する監査等委員会スタッフを置くこととしております。当該スタッフは、内部監査室(兼任1名)が中心となり、内部監査等との兼任で監査等委員会の職務を補助しております。

監査等委員会、会計監査人、内部監査部門の連携状況 [更新](#)

監査等委員会は、会社の業務及び財産の状況の調査その他の監査職務の執行にあたり、内部監査部門と緊密な連携を保ち、内部監査部門の実施する監査毎に報告を受けるものとしております。

また、当社及び子会社の㈱ムーミン物語は、EY新日本有限責任監査法人与監査契約を締結し、会社法等に基づく監査を委嘱しております。海外子会社であるSGI-Group B.V.は、同監査法人与同一のネットワークに属しているアーンスト・アンド・ヤングのメンバーファームに監査証明業務を委嘱しております。

監査等委員会及び内部監査部門は、会計監査人から四半期ごとに報告を受けるなど、積極的に意見及び情報の交換を行い、監査の質的向上を図っており、監査等委員会と会計監査人は監査上の主要な検討事項(KAM)について、協議を行っております。経理部門は、会計監査人に個別案件ごとの会計処理の適切性や会計基準の準拠性の事前確認などを行っております。

【任意の委員会】

指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無 なし

【独立役員関係】

独立役員の数 3名

その他独立役員に関する事項

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する
施策の実施状況

ストックオプション制度の導入

該当項目に関する補足説明

当社は、取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)に対し、株式報酬型ストックオプションを付与しており、単年度の業績のみならず、中・長期的な業績向上に注力することを期待しております。

ストックオプションによる報酬等の額は、年額37,500千円以内であり、退職慰労金の性格に鑑み、取締役に対する固定報酬の額にそれに対する退職慰労金積立額相当額の計算のための一定の割合を乗じたものとしております。付与される新株予約権には、長期インセンティブとして、取締役等を退任しないと権利行使ができない旨の条件を付し、株式1株当たりの払込金額を1円とし、当社普通株式の交付を受けることができる内容となっております。

ストックオプションの付与対象者

社内取締役、従業員、子会社の取締役、子会社の従業員

該当項目に関する補足説明

取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)に対する株式報酬型ストックオプションについては、「取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況」としております。

当社従業員、子会社の取締役・従業員に対しては、業績向上に対する意欲や士気を一層高め、中長期的な企業価値向上のための有効なインセンティブの一つとして通常型のストックオプションを、職位に応じて、付与しております。

【取締役報酬関係】

(個別の取締役報酬の)開示状況

個別報酬の開示はしていない

該当項目に関する補足説明 更新

2021年9月期に係る当社の取締役に対する報酬等の額は以下のとおりです。

取締役(社外取締役を除く。)

報酬等の総額119百万円 <基本報酬101百万円、非金銭報酬等(ストックオプション)17百万円 >
対象となる員数4名

取締役(監査等委員)(社外取締役を除く。)

対象者はありません。

社外取締役(監査等委員)

報酬等の総額 26百万円 <基本報酬 26百万円 >
対象となる員数5名

上記には、上記には、2020年12月22日開催の第26期定時株主総会終結の時をもって退任した監査等委員である取締役(社外取締役)1名を含んでおります。

2019年12月19日開催の第25期定時株主総会において、取締役(監査等委員である取締役を除く。)の基本報酬は年額250百万円以内(同定時株主総会終結時点における取締役(監査等委員である取締役を除く。)の員数は2名(うち社外取締役は0名))、監査等委員である取締役の報酬額は年額100百万円以内(同定時株主総会終結時点における監査等委員である取締役の員数は4名)と、それぞれ決議しております(定款上の取締役(監査等委員である取締役を除く。)の員数の上限は4名、監査等委員である取締役の員数の上限は5名)。また、同定時株主総会において、当社の取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)に対する株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等の額を、年額37,500千円以内と決議しております(同定時株主総会終結時点における取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)の員数は2名)。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

A. 取締役(監査等委員である取締役及び非業務執行取締役を除く。以下、A.において同じ。)の個人別の報酬等の内容に係る決定方針(以下、「報酬決定方針」という。)

i 報酬決定方針の内容の概要

1) 基本方針

当社の取締役の報酬等の基本方針は、以下の通りとする。

- ・当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を促進し、短期のみではなく中長期的な業績向上への貢献意欲を高める報酬制度とする。
- ・優秀な人材を確保・維持するために相応しい報酬水準とする。

2) 報酬構成

取締役の報酬等は、固定報酬である基本報酬と、退職慰労金的性格を有する株式報酬型ストックオプションで構成する。

3) 基本報酬(金銭報酬)の個人別の報酬等の額の決定に関する方針(報酬等を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。)

取締役の基本報酬は、月例の固定報酬とし、役位、職責、実績、前年度の全体業績に対する経営責任、業務執行責任等、他社水準、従業員給与とのバランス等を総合的に勘案して決定するものとする。

4) 非金銭報酬等の内容及び額または数の算定方法の決定に関する方針(報酬等を与える時期または条件の決定)

非金銭報酬等は株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権とし、取締役に対して、株価上昇によるメリットのみならず株価下落によるリスクも株主と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲や士気を一層高めること等を目的として、事業年度毎に割り当てる。当該報酬等の額は、退職慰労金的性格に鑑み、取締役の基本報酬(固定報酬)の額にそれに対する退職慰労金積立額相当額の計算のための一定の割合を乗じたものとする。本新株予約権は、長期インセンティブとするため、取締役等を退任しないと権利行使ができない旨の条件を付し、株式1株当たりの払込金額を1円とし、当社普通株式の交付を受けることができる内容とする。また、本新株予約権の総数は、各事業年度で3,000個(各新株予約権の目的である株式の数は100株。株式分割等を行う場合は調整。)を上限とする。

5) 金銭報酬の額または非金銭報酬等の額の取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

取締役の種類別の報酬割合については特に定めないが、非金銭報酬等である株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等は、基本報酬の額にそれに対する退職慰労金積立額相当額の計算のための一定の割合を乗じたものとする。

6) 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役の個人別の報酬額は、基本報酬の額については、取締役会の決議によって独立社外取締役で構成する監査等委員会にその具体的内容の決定を委任する。監査等委員会は、代表取締役社長が上記3)の方針に基づき各取締役を評価して策定した原案をもとに、各取締役の報酬案を審議し、最終決定するものとする。

株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等については、取締役会が上記4)の方針に基づき、個人別の割当する新株予約権の数等を決議することによって決定するものとする。

報酬決定方針の決定方法

当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を促進するような報酬制度とするとともに、より透明性の高い報酬決定プロセスにするという考えのもとで、代表取締役社長が社外取締役と協議の上、従来の報酬決定方針から変更する為の原案を作成し、2021年12月21日開催の取締役会において変更を決議いたしました。

上記に記載のとおり、当社は2021年12月21日開催の取締役会において、報酬決定方針を変更しましたが、2021年9月期における報酬等は、変更前の報酬決定方針に基づいて支給しております。変更前の報酬決定方針において6)は以下のとおりで、その他の項目の変更はしていません。

< 変更前の報酬決定方針 > 6) 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役の個人別の報酬額は、基本報酬の額については取締役会の決議により代表取締役社長がその具体的内容について委任を受け、代表取締役社長は上記3)の方針に基づき各取締役を評価して原案を作成する。原案については、社外取締役である常勤監査等委員がその算定根拠等の妥当性を確認して、代表取締役社長はこの確認後の内容によって決定するものとする。

株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等については、取締役会が上記4)の方針に基づき、個人別の割当する新株予約権の数等を決議することによって決定するものとする。

取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

2021年12月21日開催の取締役会にて、基本報酬について監査等委員会に取締役の個人別の報酬額の具体的内容の決定を委任しております。その権限は、代表取締役社長が各取締役の全体業績に対する経営責任、業務執行責任等について評価を行って報酬額の前案を作成した後、独立社外取締役で構成する監査等委員会がその算定根拠等の妥当性を検討し、最終決定することです。当該権限を委任した理由は、全体業績を俯瞰しつつ各取締役の経営責任等の評価を行うための最も多くの情報を把握している代表取締役社長が原案を作成し、この原案を独立性が高い社外取締役で構成する監査等委員会において妥当性を評価することで、報酬決定方針に沿った透明性の高い報酬決定プロセスとなるためです。

B. 監査等委員である取締役の報酬等の額又は算定方法の決定に関する方針に関する事項

当社取締役会は、監査等委員である取締役の報酬等については、その役割の観点から基本報酬にのみで構成し、常勤と非常勤の別、業務の分担等を勘案し、監査等委員である取締役の協議により決定することとしています。

【社外取締役のサポート体制】

当社は、社外取締役が独立した立場から経営への監視を的確かつ有効に実行できる体制を構築するため、内部監査部門、内部統制部門との連携の下、必要の都度、経営に関わる必要な資料の提供や事情説明を行う体制をとっております。また、取締役会で充実した議論を行うために、取締役会事務局が社外取締役に対して、取締役会の決議及び報告事項に関する事前説明を行っております。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要) 更新

・当社は、監査等委員会設置会社であります。

・取締役会は、以下の議長及び構成員の計6名で構成されております。原則として毎月1回定例取締役会を、必要に応じて適宜臨時取締役会を開催して、経営の基本方針、経営戦略等の経営に関する重要事項及び各種法令で定める事項について審議・決定するとともに重要事項の報告がなされ、個々の取締役の業務執行状況の監督を行っております。なお、当社は、定款の定め及び取締役会の決議に従い、法令により取締役会の専決事項として定められた事項、一定額以上の投融資、組織変更等を除き、取締役(監査等委員である取締役を除く。)に重要な業務執行を委任しております。

議長: 玉井 信光(代表取締役社長)

構成員: 千田 高(取締役)、吉岡 尚子(取締役)

川崎 史顯(社外取締役 常勤監査等委員)、鈴木 健次郎(社外取締役 監査等委員)、大山 亨(社外取締役 監査等委員)

・監査等委員会は、以下の委員長及び構成員の計3名で構成されており、全員が社外取締役であります。監査等委員は、監査等委員会で定めた監査基準及び監査計画に従い、取締役会等の重要会議への出席のほか、常勤の監査等委員の経営会議への出席、株主総会における取締役(監査等委員である取締役を除く。)の選任、解任、報酬に関する意見陳述権の行使等を通じて、取締役の職務執行の監査・監督を行います。

委員長: 川崎 史顯(社外取締役 常勤監査等委員)

構成員: 鈴木 健次郎(社外取締役 監査等委員)、大山 亨(社外取締役 監査等委員)

・当社は経営上の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、意思決定の迅速化と業務執行体制の強化を図ることを目的として執行役員制度を導入しております。

・経営会議は、業務執行取締役、常勤監査等委員である取締役、執行役員、必要に応じて執行部門の部門長及び子会社の取締役等が参加して、個別の業務執行状況の報告や今後の具体的施策に関する協議等を行っております。

議長: 玉井 信光(代表取締役社長)

構成員: 千田 高(取締役)、吉岡 尚子(取締役)

川崎 史顯(社外取締役 常勤監査等委員)、執行役員、他

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社が、監査等委員会設置会社を選択している理由は、以下の通りです。

コーポレート・ガバナンスの強化

監査等委員会設置会社では、過半数が社外取締役である監査等委員が取締役会において議決権を有することにより、外部意見を取り入れ、取締役会の監督機能を強化できると考えております。また、監査等委員会において、業務執行取締役の選任、報酬の妥当性についての検証を行うことも含め、経営全般の監督を行うことで、経営の透明性を向上させ、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることができます。

業務執行の機動性向上

監査等委員会設置会社は、重要な業務執行について、一定の条件の下で取締役会の決議により取締役へ委任することで、業務執行の機動性が向上し、急速に変化する事業環境に対応することが可能となります。また当社では、取締役会において、中長期を含む経営戦略等の議論を更に充実させることで、企業価値の向上を目指しております。

なお、当社グループの本業である投資銀行事業の人員数や、事業規模等に照らし、業務執行取締役をコンパクトな人員数とするとともに、コーポレート・ガバナンスの実行性を一層高めるため、取締役の3分の1以上を社外取締役としています。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	2021年9月期に係る定時株主総会においては、法定期日の3営業日前(総会開催日の20日前)に発送しております。また、株主総会開催日の27日前に東京証券取引所、当社ウェブサイトに掲載しております。
集中日を回避した株主総会の設定	当社の決算期は9月30日であり、毎年12月に株主総会を開催しております。日本では一般的に3月決算の会社が多く、6月末に株主総会が集中いたしますが、当社にはそれに該当いたしません。 なお、株主総会出席の便を考慮して年末を避けた日を株主総会開催日に設定しつつ、招集通知に記載する情報の正解性の担保と早期発送の両立に努めています。
電磁的方法による議決権の行使	インターネットによる議決権の行使を導入しております。2018年9月期の定時株主総会よりスマートフォンでQRコードを読み取ることにより、ID・パスワード不要で議決権行使を簡単にできる「スマート行使」を導入しています。
招集通知(要約)の英文での提供	2021年9月期に係る定時株主総会においては、狭義の招集通知および参考書類を英文にし、東京証券取引所、当社ウェブサイトにて和文と同日に開示しております。

2. IRに関する活動状況 更新

	補足説明	代表者自身による説明の有無
個人投資家向けに定期的説明会を開催	当社は、毎年定期的に個人投資家向けの説明会を開催しております。2021年の個人投資家向けの説明会については3月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となったため、同月にウェブ上でIR会社説明会をIR担当部門長が説明者となり開催いたしました。	なし
IR資料のホームページ掲載	ホームページURL: http://www.fgi.co.jp/ において、IR情報(投資者向け情報)として、IRニュース(適時開示資料)、財務ハイライト、IRカレンダー、IRライブラリー、株主メモ、電子公告を掲載しております。 また、IR情報ではIRに関するメール配信サービスの登録ができます。事業案内では、当社グループの事業内容並びに投資先企業の紹介等の情報を随時更新しており、事業内容、経営成績及び財政状況の閲覧が可能となっております。 英文のサイトも同様に用意しております。	
IRに関する部署(担当者)の設置	IR担当部署名: 事業統括部 IR担当役員: 取締役副社長 上席執行役員 千田 高	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況 更新

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	FGIグループコンプライアンス規範やFGIグループ行動規範において、各種ステークホルダーとの関わりについて基本的な行動の規範を定めております。
環境保全活動、CSR活動等の実施	当社グループが運営するメッツァビレッジで障がい者施設で作られた商品の販売を通じて、障がい者のものづくりを支援しています。 またこれに関連して、2021年9月18日、19日にオンラインで開催したトントウフェスティバル()に協賛しました。 ()多様性を楽しみ、認め合い、必要などきはお互いにサポートし合う「ソーシャル・インクルージョン」を目指したフェスティバルです。SNSや動画を通じて、福祉事務所における働き方や商品の魅力・商品に込められてた想いを発信しました。

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社は、内部統制システム構築の基本方針を、以下のとおり定めております。

1. 取締役及び使用人(以下総称して「役職員」という。)の職務の遂行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

フィンテック グローバル株式会社(以下「FGI」という。)は、FGI及びその子会社からなる企業集団(以下「FGIグループ」という。)の役職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため、次の体制を整備する。

(1) FGIグループは「FGIグループ 行動規範」及び「FGIグループ コンプライアンス規範」を定め、FGIグループの役職員が研修や日々の職務を通じて公正で透明性のある企業風土の構築に努める。

(2) FGIグループは、FGI及び主要な子会社にコンプライアンス担当部署を設置すると同時に、必要に応じてコンプライアンス上の諸問題を討議する委員会を有し、コンプライアンス上の問題を発見した場合は、速やかに当該担当部署、委員会または監査等委員会等へ報告する体制を構築する。また、FGI法務・コンプライアンス部が事務局となり、FGIグループ内のコンプライアンスやリスク管理の諸問題を討議するリスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置し、法令、定款及びFGIグループ内の諸規程(以下「法令・定款等」という。)の遵守状況をモニタリングするとともに、FGIグループのコンプライアンス体制の随時見直しや取組みについて検討を行う。

(3) FGIは、FGIグループの職務実施状況の実態を把握するため、FGI取締役社長(以下「社長」という。)直轄の内部監査室を設置し、FGIグループの職務が法令・定款等に準拠して適正・妥当に行われているか定期的に内部監査を行い、その結果を社長、取締役会及び監査等委員会等に報告し、是正等の的確な対応を行う体制を構築する。

(4) FGIグループは、「FGIグループコンプライアンス規範」を定めるとともに、FGI及び主な子会社において「内部通報規程」を定め、FGIグループの役職員に周知する。これらの規程に基づく内部通報は、コンプライアンス部門及び監査等委員、社外弁護士等を通報窓口とし、報告者、相談者及び内部通報者の匿名性を確保することにより、円滑に通報や相談ができ、当該通報により報告者等に対して解雇その他、いかなる不利益取扱いを行わない仕組みを構築する。

(5) FGIは、FGIグループの役職員に信頼性のある財務報告の重要性の認識を促すとともに、連結ベースでの適正な財務報告を実現するため内部統制システムを構築する。また専門家などの情報を適切に入手した上で、事業の実態を反映するよう、会計方針を選択適用するとともに適切な会計処理を行い、適正な財務報告を実現する。

(6) FGIグループは反社会勢力との取引は行わず、また、反社会勢力との取引を行わないよう未然防止対策に努める。

2. 取締役の職務の遂行に係る情報の保存及び管理に関する体制

FGIは、「情報管理規程」に基づき、取締役の職務執行に係る情報を、その保存媒体に応じて検索し閲覧することができる状態で、適切に保存及び管理(廃棄を含む)する。

3. リスクの管理に関する規程その他の体制

(1) FGIは、「リスク管理規程」を定め、 から を含むリスクカテゴリー毎に所管部を定めてリスク管理を行う。すなわち当該所管部が各リスクに対する不断の予防体制を構築し、各リスクが顕在化した際には、必要に応じて緊急対策本部を設置し、適切な対応を行う。

信用リスク
コンプライアンスリスク
流動性リスク
オペレーショナルリスク

(2) FGIは、子会社におけるリスク情報の有無の把握に努め、子会社において重要なリスクが認識された場合には、直ちにその内容、損失の可能性の程度及びFGIグループに対する影響等について把握し、緊急対策本部はFGIのリスク管理規程に基づき適切な対応を行う。

(3) FGIは、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会において、リスク管理の組織または体制の整備、リスクに関する規程の策定、改定等のリスク管理に関する事項について検討を行う。

4. 取締役の職務の遂行が効率的に行われることを確保するための体制

FGIは、取締役間の連携を促し、その職務の執行が効率的に行われることを確保するため次の体制を整備する。

(1) 取締役会を月1回定時に開催し、必要に応じて適宜臨時取締役会または書面により取締役会を実施するほか、経営会議等目的に応じた会議体や委員会を通じて取締役間で審議、情報交換を行う。

(2) FGIは、効率的かつ機動的な業務執行のために取締役会の権限の一部を取締役へ委任する。取締役会の決定に基づく職務執行体制については、「組織規程」に基づく「稟議規程」、「業務分掌規程」及び「職務権限規程」において各職務の責任者となる取締役及びその職務範囲を定め、当該各取締役がこれを執行するものとする。

(3) 取締役が持つ経営上の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、意思決定の迅速化と業務執行体制の強化を図ることを目的として、執行役員制度を導入する。

5. FGIグループにおける職務の適正を確保するための体制

FGIグループは、FGIグループにおける職務の適正を確保するために次の体制を整備する。

(1) FGIグループは、職務の適正化を確保するために各社の職務運営に関する諸規程を定める。

(2) FGIは、子会社の職務の適正を確保するために子会社の監視・監督や子会社の職務の執行に係る事項のFGIへの報告に関する規程を定め、FGI担当部署は当該規程に従い、子会社に対する監視・監督を果たし子会社の営業成績・財務状況その他重要な情報について、定期的に当社へ

の報告が行われる体制を整備する。

(3) 必要に応じて、子会社の役員にFGIの役員が就任することにより、ガバナンスを確保する。

6. 財務報告の信頼性を確保するための体制

(1) FGIグループは、適正な会計処理を確保し、財務報告の信頼性を向上させるため、経理業務に関する規程を定めるとともに、財務報告に係る内部統制の体制整備と有効性向上を図る。

(2) 内部監査部署は、財務報告に係る内部統制について監査を行う。主管部署及び監査を受けた部署は、是正、改善の必要があるときには、その対策を講ずる。

7. 反社会的勢力との取引の排除・防止のための体制

(1) FGIは「FGIグループコンプライアンス規範」を定め、反社会的勢力との取引の謝絶、未然防止についてFGIグループの役職員全員が高い認識を持った対応が行えるよう努める。

(2) FGIは反社会的勢力との取引防止のためFGIグループ共通の「反社チェック」制度を設け、FGIグループの役職員に周知・徹底の上、遵守させる。

8. 監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項

FGIは、監査等委員会から求めがある場合には、速やかに監査等委員会の職務を補助する監査等委員スタッフを置くこととする。

9. 上記8.の使用人の他の取締役(監査等委員である取締役を除く。)からの独立性及び監査等委員会の当該使用人に対する指示の実行性の確保に関する事項

(1) FGIは、監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関し、その独立性を確保するため、当該使用人の任命、異動等人事権にかかわる事項の決定については事前に監査等委員会の同意を得るものとする。

(2) 監査等委員会の職務を補助すべき使用人の当該補助職務に対する指揮命令権は、監査等委員会が有するものとし、取締役(監査等委員を除く。)からの指揮命令に服さないものとする。

10. 役職員が監査等委員会に報告をするための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制

FGIは、役職員が監査等委員に報告するため次の体制を整備する。

(1) 役職員はFGIの職務、業績に影響を与える重要な事項または監査等委員会による指摘事項に関する対応の進捗状況等について監査等委員会に都度報告する。

(2) 監査等委員会はいつでも必要に応じて、役職員に対して報告を求めることができる。

11. その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

FGIは、監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するために次の体制を整備する。

(1) 監査等委員は、社長その他の取締役または会計監査人とそれぞれ定期的にまたは必要に応じて意見交換する。

(2) 監査等委員は、内部監査担当部門や子会社の取締役または監査役等との情報交換、連携を密にするとともに、必要に応じて、子会社の監査役を兼務する。

(3) 監査等委員(常勤)は、適時かつ的確に職務執行状況を把握するため、経営会議に出席する。また、その他の会議体の議事録、資料等を閲覧できる。

(4) 監査等委員は、必要に応じて、監査等委員の監査を支える弁護士、公認会計士、コンサルタントその他外部アドバイザーに相談することができ、その費用は会社が負担するものとする。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、企業の社会的責任及び企業防衛の観点から、反社会的勢力との関係は一切持たないとの基本方針のもと、当社の「FGIグループコンプライアンス規範」で定められた反社会的勢力対応の一貫として反社会的勢力チェック体制を整備し、その運用を徹底、適宜その体制改善を図ることと、反社会的勢力を一切排除する取り組みを実施しております。

具体的には、当社もしくは当社関係会社が行う取引について、原則として全取引先に対し、取引の事前及び定期的に、取引先及びその経営者等について調査を行うことを基本としております。また調査結果についてはデータベース化を行うことで情報の蓄積を図るとともに、必要に応じて外部専門家と連携するなど、体制の強化を図っております。

また、当社が締結する契約書等には、反社会的勢力であることが判明した場合は解除事由となる条項を設けるなど、様々な措置を講じており、万一そのような勢力からの接触・介入があった場合には、社内外で連携を図りながら毅然とした態度で対処する所存であります。

その他

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

